

4 4 「ソレダー」

今から10年ほど前、まだインターネットでファイル交換ソフトによる音楽の違法ダウンロードが横行していた頃のことである。私はフラメンコやラテン系の音楽を中心にたくさんダウンロードしていた。

“ Camaron (カマロン)” “ Jose Feliciano (ホセ・ファリシアーノ)” “ Marc Anthony (マーク・アンソニー)” など歌手名、“ Astor Piazzolla (アストル・ピアソラ)” など作曲家名、“ Sevillanas (セビリアーナス)” “ Salsa (サルサ)” といったリズム名・曲名などを入力すると、その時点でインターネットに接続している全世界のコンピュータ(の特定フォルダー)に保存されているデータで、それに合致するデータが表示されダウンロードできてしまう。

今考えると、コンピュータ同士が繋がっている状態はウイルスのことを考えるととても恐ろしいのだが、無料でダウンロードできることは音楽好きにはたまらない魅力だったのである。その後間もなく、音楽ソフトの著作権問題や重要データ漏洩などの問題が発生して禁止されてしまった。

ある時、“ Solea (ソレア)” というキーワードを入力した。Solea (ソレア)とは、フラメンコのリズム名・形式名で、フラメンコファンなら誰でも知っている。「フラメンコの母」といわれる最もフラメンコらしい曲調で、フラメンコといえばソレアといっても過言ではない。

多くの Solea の中に混じって Soledad (ソレダード) という曲がダウンロードされた。

スペイン南部アンダルシア地方の方言は、語尾にある「d」や母音の間にある「d」は発音しない。もとは Soledad (ソレダード: 孤独) という単語が、アンダルシアでは2つの“d”を省いて Soledad (ソレアー) と発音され、結果として Soledad Solea と綴られるアンダルシア方言の単語となった。Solea は “ Soleá ” と表記され、語尾の á にアクセントを置いて発音される。

さて、そのダウンロードされた Soledad はフラメンコではなく、アイルランド出身の「Westlife (ウエストライフ)」という4人のグループの歌だったのである。

私は知らなかったが、このグループの曲はイギリスのヒットチャートで何度も1位に輝いている。1,998年に結成され、すぐに大ヒット曲を出し超人気グループになったが2,012年に解散してしまった。

何故こんなことを書くのかというと、この Soledad がとてもいい曲で気に入ったからだ。

Soledad は、2,000年に発売された Coast to coast (コースト・トゥ・コースト) というアルバムに何気なく入っている目立たない曲。勿論英語の曲である。

Westlife の曲は大ヒットしたものがたくさんあるけれど、私の好みとは少し違う曲調で、ただこの1曲 Soledad だけが特別に好きなのだ。

英語では「Sole (唯一の、ただ一人の)」という単語が「Soledad (孤独)」に相当すると思われ、言葉の意味も綴りも似ている。

詩は、去ってしまった女性の面影に、もう一度だけ僕の心を癒してほしい、“一人ぼっち” になってしまって、本当に寂しい、、、というような内容である。

If only you could see the tears
In the world you left behind
If only you could heal my heart
Just one more time

Even when I close my eyes
There's an image of your face
And once again I come to realis(z)e
You're a loss I can't replace

Soledad

It's a keeping for the lonely
Since the day that you were gone
Why did you leave me

Soledad

In my heart you were the only
And your memory lives on
Why did you leave me

Soledad

(2013年4月30日)

「後日談」

この小文を書き始めたとき、自分で詩を翻訳しようと思っていた。しかし、どうあがいても英語の詩の翻訳は難しいということがわかった。詩は1つ1つの単語が選びぬかれ、意味が凝縮され、比喩もある。単語の意味がわかったところでどうにもならない。自分の言葉で読んだとしても、作者の意図した本当の意味をつかめないことも多い。人によって解釈の違いもある。

そこで、従妹のご主人(カナダ人)に翻訳をお願いしていたのである。彼には、以前一度だけ仕事上のことで教えてもらったことがある。やはり、ネイティブの知り合いがいると助かる。

しかし、いくら待っても何の連絡もなかったので、忙しくてできないのだろうと思い、詩の概略の意味を記すことで完成させた。

ところが、約1ヶ月経って返事が来た。彼は満足する翻訳ができなかったという。

原文での意味がわかって、適切な日本語にすることが難しかったということのようだ。彼は永年日本に住み日本語は自由に話せるが、やはり詩の翻訳となると難しい。娘さんに相談しながら頑張って訳してくれたのだった。彼女は日本で生まれ日本で育っているので、日本語文化と英語の両方に馴染んでいる。だから、父娘による翻訳は正しいと思う。

私は、恋人との別れの寂しさを表現したものと捉えていたのだが、実は全然違っていった。原文を良く見ると“恋人”“女性”に当たる単語は1つも見当たらない。“一人”“寂しい”という単語から勝手に「恋人との別れ」をイメージしてしまったのである。

“Solea”というキーワードでダウンロードされた曲(Soledad)だったので、“Sole”の意味を“孤独”と解釈し、“Sole”と“dad(お父さん)”を結びつけた詩的な造語“Sole-dad”ということには全く考えが及ばなかった。先入観による誤りである。

それは、サビの部分の“Time will never change the things you've told me. After all we're meant to be love will bring us back to you and me.”というフレーズからもわかる。

もう1つのキーワードは“gone”だ。goneには“過ぎ去った”という意味のほかにも“死んだ(dead)”

という意味がある。そして、歌を聴くとサビのところの歌い方の激しさは、やはり「恋人が去った」というよりは「最愛の父が死んだ」というほうがぴったりくる。

詩の翻訳というのは本当に難しいということを改めて認識させられた。これからは、原文と翻訳の両方を見ながら詩を味わっていけば興味は尽きないと思う。

「Soledad」

親愛なる私のお父さん 今の僕の涙を見る事が出来たなら良いのに
もう一度だけ、僕のこの心の傷を癒してくれたなら良いのに

目を閉じると、あなたがそこにいる
そして知るんだ 僕の力ではもうあなたをどうすることもできないことを

soledad (大好きな父)

孤独が蘇らせる記憶

あなたが亡くなった日からずっとこうなんだ

どうして僕をおいて行ってしまったの

soledad (大好きな父)

僕にはお父さん、あなただけだった

あなたの思い出が僕の心に生きているんだ

どうして行ってしまったの

soledad (大好きな父)

(2013年6月13日)